



じゅうく。

19歳、未来が動き出す。

2021年度「じゅうく。」活動報告

多くの子どもたちに、「未来が動き出す。」きっかけを

連載 No. 12 / 12
Date. 2022.03

学習サポート

「レベル別英語授業」と学習法を学ぶ「スキルアップ授業」を実施しました。また、定期テストのサポートや受験指導なども実施しました。

通塾生の9割以上が授業に出席。満足度は95%以上。定期テストでは数学の点数を40点も上げた生徒もいました。



Topic

生徒からの声

「授業がおもしろかった」「自分にあった勉強法を見つけられた」

地域との関わり

「シェルシェ出店」をはじめとして、生徒たちが地域の大人と関わったり、地域の魅力に目を向けたりする機会を大切にしました。



Topic

生徒からの声

「生産者さんの仕事を体験できて良い経験になった」「地域の方が親身に接してくれた。自分もあんな人になりたい」

一人ひとりの挑戦のサポート

地域横断プロジェクト「フミダス！」を年間を通じて実施しました。オンラインイベントを1から企画したり、クラウドファンディングに挑戦したりと、さまざまなチャレンジがありました。

クラウドファンディングでは167万円以上の支援をいただきました。オンラインイベントでは70人の大人を集客し、満足度91%を獲得しました。



Topic

生徒からの声

「大変なこともあったけど、今までの自分を変えられた。参加してよかった」「とても達成感があった。これからも色々なことに挑戦したい」

2021年度も「じゅうく。」を応援していただき、誠にありがとうございました。来年度も、引き続きどうぞよろしくお願いいたします！



お問い合わせ先 町営塾「じゅうく。」 ☎ 22-3163

季節の風景 3月

弥生

襖絵を 弥生なかばの 日が移る（水原 秋桜子）

昔の人は、現在のように一月、二月、三月など数字ではなく、その季節に合った言葉で月の名前をつけていました。弥生は「三月」のことですが、もともと弥生は旧暦の三月を指す言葉でした。現在は、旧暦三月＝新暦三月と考え、弥生を新暦の三月の別名として使われています。しかし、旧暦は太陰太陽暦という暦を使用していたため、単純に新暦（太陽暦）に当てはまるわけではありません。新暦に置き換えると三月下旬～五月上旬頃に当たり、一カ月ほどズレが生じています。五月上旬には「立夏」を迎えますので、既に緑が生い茂っている季節も含まれています。

語源の由来は、「弥生（いやおい）」が変化したもので、「弥（いや）」は、「いよいよ」「ますます」「生（おい）」は、「草木が生い茂る」という意味があり、冬が終わって草木が芽吹き生い茂る季節を表現しています。

因みに、弥生時代の弥生は明治十七年に東京都文京区弥生町で弥生式土器が発掘されたことにより、この土器が使われていた紀元前五～三世紀頃までを弥生時代と呼ぶようになったそうです。



今月の



ランナーのことを理解するには、
自分でも走ってみなければ！

2021年11月、ご夫婦で

四万十町に移住してこられた阿部さん。阿部さんは、神奈川県横浜生まれ、大磯町育ち。横浜の高校を卒業後、大学に進学しましたが「航空会社で仕事がしたい」と思い、外国語専門学校へ。

卒業後は念願の航空会社に入り、成田空港のグランドスタッフとして働き始めました。その後、いくつかの仕事をを経て、地元大磯を拠点にしているマラソン大会の企画運営会社に入社。きっかけは東日本大震災。「震災をきっかけに、自分が育った町に何か恩返しをしたいと思うようになりまし



▲ 2016 年代表監督として
イタリアのシチリアへ。

そんな阿部さん、実はマラソンを走ったことがなく「どちらかというと、走るの苦手」だったそうです。しかし「ランナーのことをちゃんと理解するには、自分でも走ってみなければ！」と一念発起！

練習を積み、2012年、第一回富士山マラソンに参加。ところが30km地点で無念のリタイア。ほろ苦いデビューとなってしまいました。



あべ あずさ
阿部 亜梓さん

したが、2年後、名古屋ウィメンズマラソンでリベンジを果たします。あの「走るの苦手だった私」は、今ではランニングがライフワークに。マラソン企画運営会社の同僚だった方と結婚され、今ではお二人で「ランニング動画」をYouTubeにアップされるほど。さて、そんな「ランニングコンビ」の阿部さん夫妻は、このコロナ禍にあって、様々な閉塞感を感じていたそうです。そして考え抜いた末「土がなくて、畑があつて、草の匂いするところまで暮らしたい」というかねてからの希望を実現することになり、移住に踏み切ったというわけです。

ところで阿部さんにはもうひとつのすごい経歴があります。高校のカヌー部時代に出会った競技「カヌーポロ」の選手。高3の時にブラジルであった世界選手権にも出場。就職してから1年ほどはクラブチームでプレーを続け、そしてなんと2015～16年まで女子日本代表の監督を務めていたというから驚き！

連載 No. 5

令和6年度開館予定 /
FAQ 教えて！文化的施設のこと 後編
建物の設計はどうなっているの？

前編は先月号をご覧ください

◆ 建物全体を4つの機能（図書館・美術館・展示・コミュニティ）で構成！

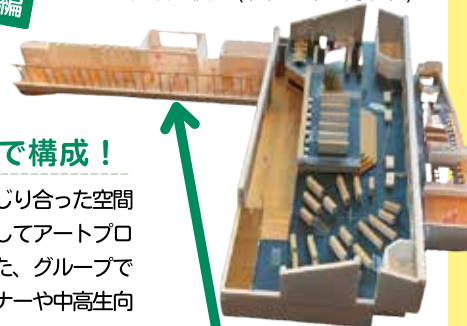
1階にはスタジオやアートギャラリー、美術作品の収蔵庫や交流コーナーなどが配置され、各機能が交じり合った空間となっています。アートギャラリー前には中庭があり、開放的な空間に。また、これらのスペースを活用してアートプロジェクトなども検討しています。2階には、四万十町の歴史を感じさせる資料などの展示を行います。また、グループで集まれる空間や1人で読書や学習などができるスペースがあるほか、小さなお子様連れ向けのキッズコーナーや中高生向けのティーンズコーナーなど、図書館機能を主とした各機能が融合した空間となっています。

◆ 四万十町らしい「木材」を生かした設計に！

アプローチ棟の中庭に接する西側の外壁面には「組子耐力壁」を用います。組子耐力壁は日本古来の伝統文様と組子細工技術から誕生した耐力壁です。デザインが美しいだけでなく、地震などで一定の力が加わった際、柱や梁よりも先に細やかな組子が壊れエネルギーを分散させることで、建物全体の被害を最小限に抑える仕組みになっており、耐震性にも優れています。また、木材は「四万十ヒノキ」を使用。ヒノキには「油分」や「粘り」があり、構造体に適しています。文化的施設では「三ツ組手（みつくで）」と呼ばれる文様を採用する予定です。

昨年11月には、高知県立森林技術センターにおいて、第1回目の組子耐力壁の予備破壊試験を行いました。今後、第1回目の予備試験において洗い出された点をもとにさらに改良を加え、第2回目の予備試験を梅雨時期に、第3回目として夏に本番の破壊試験を行います。また、組子耐力壁のみでなく、その他の部分も「四万十町産材利用推進方針」等に基づき、可能な限りの木質化と町産材の活用を図ることとし、来館された方に四万十町の「木の文化」を感じてもらえる施設を目指しています。

※設計は今後、変更となる可能性があります。
▼施設の模型（令和4年2月現在）



アプローチ棟のこの部分で
使用予定！



▲第1回組子耐力壁の
破壊試験の様子

次回テーマ：サービス計画ができたけど、どんなことをするの？

「四万十町文化的施設」ビジョン

まちの文化が流れ、ひとにひらかれ、ひとが集まる 四万十駄場

お問い合わせ先
企画課 文化的施設整備推進室
☎ 22-3124